

令和元年度 第3回沼田市市民構想会議の概要について

1 日 時 令和元年8月20日（火）午後3時から午後5時

2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）

3 出席者

(1) 委員 金井竹徳委員、林 勝男委員、生方秀二委員、岡嶋稜子委員、
小野里順子委員、角田郁子委員、六本木勇治委員、林 康夫委員、
石澤雄一郎委員、小林 好委員、鈴木 誠委員、山田龍之介委員、
小田川裕哉委員、坂井 隆委員、長沼祐子委員、小池大介委員
(16名)

(2) アドバイザー 篠田 暢之氏

(3) 沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長

(事務局：矢代企画課長、武井補佐兼企画係長、小野里主事)

4 配付資料

○次第

○第2回沼田市市民構想会議の概要について

5 概 要

(1) 開会（事務局：企画課長）

(2) 会長あいさつ（生方秀二会長）

(3) 前回の会議結果について（事務局：企画課長）

**** 第2回会議の概要により説明 ****

< 質疑等 >

○ 少子高齢化の課題に対して、最終的な検討テーマが里山を活かした産業論になっているが、前回の会議では社会福祉的な意見が多かったと感じており、検討テーマの方向性に違和感がある。

● 前回の会議では、委員の皆さんからは検討テーマを提案いただきました。また、アドバイザーの篠田先生からは、今後の議論の方向性として里山産業論につながる地域の総合的将来設計の切り口でまとめていってはどうかというご意見をいただきましたので、それらを前回の会議結果として報告させていただいたものでございます。今後どのような検討テーマで進めていくのかについては、本日の議論の中で決定していただきたいと考えています。

(4) 議題

1) 検討テーマの協議について

<事務局>

**** 地域自治の推進に係る市の取り組みについて説明 ****

<アドバイザー>

**** 検討テーマの協議にあたっての留意点等 ****

先ほどのご質問の中で、前回の会議でお聞かせいただいた皆さんの多様なご意見を前回の会議においてひとつの参考例として「里山産業論」という言葉を使い考えていくことを提案させて頂きました。沼田市の将来像を考える際に議論される場合、各論的な問題提起であっても、総合的にみるとバラバラな問題提起であったりするように見えていて、それらが大きなコアとして理解し考える対象になっている事が理解できるからです。

そうした観点から、ご提案頂きました諸課題をひとまずざっくりと、集約すると概ね効率よく考え直す事が出来る里山産業論となると思いました。

特に高齢者福祉や地域福祉の充実ということには、そぐわないというご指摘もありましたが、この言葉だけから推察される限りそれは私も否定するところではありません。ただし、産業は農業や地域地場産業や観光等のみが産業ではありません。高齢者福祉も、地域福祉も立派な産業に他ならないからです。今のところ、こうした分野は多分に行政頼みの傾向にありますが、こうしたところについても、従来の枠組みにとらわれることなく考えてみるというのも、この会議では許されていると考えます。広くお考えいただくたたき台として里山の産業論を論じる必要性をご理解いただきたかったからです。

皆さんの貴重なご意見を拝聴し、あらためて熟考しましたら、これらは大きく4つに分類できるのではないかと思います。そして各団体を代表する委員さんもお在席ですので、各論としては様々のご意見が多くなると思いますが、この市民構想会議では、組織や団体の代表であるとともにご自身が市民代表でもあるとの立場から、広範な議論をされた方が、未来に結びつく議論になるのではないかと思います。

順不同ですが、4つの分類の1つめは、『沼田の広報力の向上』で、「地力をつける」、「観光開発」、「財政基盤の確立」、「グリーンツーリズム」などをひとつのグループとして広範な議論をされると、この地域の未来のあるべき論に、効率よく向かえるのではないかと感じました。

2つめは、『少子高齢化対策』で、今のところ成功した地域は殆どないといわれています。その理由は人口減少に歯止めをかけることはできないと

いう前提で考えなければならないという意味で、「8050、7040対策」、「社会保障」、「社会福祉」など、これからの20年・30年先を見据えたときに、この地域独自の取り組みがあった方が良いと感じました。昨日、政府は来年の4月から各省庁を再編してスリム化し、スタッフも減らすという発表がありました。これなどは、まさに、来年度から中央省庁を中心に引き算型の行政運営が始まるということに他なりません。その意味で、この市民構想会議は、既に5年前からこうした取り組みをすすめておられ沼田市の先進的な取り組みが政府のこれから始める取り組みによって証されたのではと思います。そうした議論を重ねることの重要性は市民の視線でこれからこの地域をどうしたいのかを議論する貴重な機会になっていると思います。

3つめは『地域コミュニティの再構築と拠点づくり』で、地域の間関係や未来に向かって、住民が楽しく、幸せに暮らせることが地域の誇りになるような、「地域コミュニティの再構築」についても考えなければなりません。人口減少が進む中で、これまで人口増加を基礎にした社会的なインフラの引き算がこれから行われていく中で、先の目的にかなった未来への準備が同時に「地域の拠点づくり」として、公民館の再編や特色づけなどの問題を議論する機会が増えてくると思います。議論を基礎に進め方によっては、こうした議論がこの地域に住む人々の「世代を超えた生き甲斐づくり」にもなると思いますし、ここに生まれて良かったと思えるようなコミュニティの再編を、まちづくりとして考える機会にもなると思います。また、ご発言のあった「SDGs（グローバル・ゴールズ）」への取り組みも含めて、それが皆さんにとって、具体的にはどういう意味を持つか議論が出来ればと思います。

4つめは、『テラス沼田の具体的利活用の改善』ですが、このテーマには、すぐ出来る内容や、既に改善に向けて庁内で検討されているものも含まれているかと思います。具体的なご提案に即答して頂ける内容と、現在、検討が進められている内容など、情報が明らかになれば解決が進むご指摘やご提案があるかもしれません。が大切な事は、このテラス沼田は「市民の財産」のひとつです。その意味でも皆さんが、これをどう使いたいのかを確認できる貴重な機会になると同時に皆さんの暮らしを守る城として、目に見えない生活の安全性を市民になり代わり役目をはたしておられる拠点でもあると思います。

以上、皆さんの前回のご発言をこの4つにグループ分けできるのではないかと思いますので、進め方としてはこの4つでそれぞれ議論を進めてみてはいかがかと大きく分けてみました。

議論を進める上で、何が問題になっているのかをもっと鮮明にして、それを解決するためにはどうすべきなのか、予算や人、その為の施設設備や場所があるのかなど、議論をより現実的な問題に落とし込んでいくことになると思います。

前回の皆さんのご意見を具（つぶさ）に考えてみて、順不同ですが4つの区分で大きく捉え直して、各専門分野の垣根を越えて議論が出来れば、素敵な市民構想会議の成果につながるのではないかと思います。

<主な意見>

- 4つのテーマをグループに分かれて議論の方が意見を出しやすいのではないか。
- 人口減少の中で沼田の活性化をどうするのかという議論をするときに、「テラス沼田の具体的利活用の改善」は検討テーマとして異質に感じる。
- 総合計画では課題や今後の方向性などが概ね網羅されているように思うが、この会議で我々に何が求められているのかが分からない。
- 市の会議は事務局の考えを形式的に承認するだけの会議が多いと感じており、会議の進行にあたって、今日は何をどこまで決定するのかなどを明確にして、時間を無駄にしないよう進めてもらいたい。
- 市民構想会議からの提言に対して、これまで市がどう対応してきたのかが分からない。
- 市民構想会議は、提言することによって市が実行していくという会議なのか。本来、活性化するためには、民間が主力にならないと実行性がないと思うが、市が実行していくということでのよいのか。
- 市民が何をするのか、それに対して市は何をするのかを整理しておかないと意味の無い会議になってしまうので、自分たちに何が出来るのかを中心に議論を進めて、それに対して市はどうするのかという議論や意見交換が出来ると、実践的なものになると思う。
- 会議の質を上げるためにファシリテーター協会からの人材派遣を考えられないか。
- 第1期、第2期の提言の中で、実現できていないことを放置して次に進むと、これまでの議論が無駄になってしまうので、そうした実現できていないものについて具体的な実行方法などを再協議していく方向で会議を進めてはどうか。
- 会議資料を事前に見ておくことで効率的、有意義な議論ができるので、資料の事前配付（配信）が必要である。
- 各論を出し合ってから、最終的に総論としてまとめていく手法は考えら

れないか。

- これから人口が減少したときに、将来の沼田市をどうするのかということを考えるべきである。人口が減少して農地が原野に戻ると鳥獣害が増加し、熊やイノシシが住宅地にまで出現するようになる。若い人が残らなければ集落での生活が困難になり、集落に住めなくなる、或いは集落が消滅するなど、何がこれから起こるのか分かっているのに、分かっている現実を注視して、これからどうするのかを皆で考えていくべきである。
- 行政に対して提言するのではなくて、我々が考えていること、行動を起こすことを市民に知ってもらい、市民に対して提言する集まりとしてはどうか。
- 沼田市の課題を突き詰めていくと人口減少対策ということになると思うが、これまでの市の具体的な取り組みの情報を提供してもらえると次の議論につながってくる。
- 市の各課から市民構想会議に課題提起することは考えられないか。
- 少子高齢化や東京一極集中などは、ずっと以前から課題とされていて国も地方も様々な取り組みを行ってきたが、人口減少により地方経済は衰退しており解決の道筋が一向に見えてこない。つまり、今までどおりのやり方ではだめなので、この市民構想会議では市民の皆さんの知恵を拝借して、今までとは違うやり方で問題を解決していきたいということなのだと思う。
- 外から見た沼田という視点も大事なので、ホームページなどを使って内部だけでなく外部からの意見を取り入れて議論するなど発想の転換も必要である。

<アドバイザー講評>

先ほど、これから発生することが分かっている現実を注視して、今のうちからどうするのかを考えて行くべきであるというご意見については、全くそのとおりだと思います。

また、行政ではなく市民の方へ向くべきではないかというご意見がありました。その通りかと思えます。その為にもこの市民構想会議が横山市長さんにより提起されたと伺っています。

概ね、どこの地域でも同じように、地方公共団体は広域合併を繰り返してきましたが、人口減少により税収が減る、つまり、足し算で済まされてきた行政支援が、引き算が必要とされるようになったときに、行政だけでこれからのことを決めて良いのかということが、行政の良識として働いていると思えます。

合併後は現在の沼田市と同じですが、地理的環境からは、市内とはいえ沼田市の場合は、特に地理的環境が地域により大きく異なっており、それらの問題を、引き算が求められる時代の市民目線無視では上手く機能しない事は明らかです。それではこれからどうするのかという、行政から市民の代表者でもある本席の皆様がたへの問いかけの真意が、そこにあると推察します。

「広域合併型のまちづくり」から「地域自立型のまちづくり」へのシフトポイントの重要性がここにあると、皆様のご指摘を拝聴して、そのように思いました。

< 結論 >

○ 4つにグループ分けしたテーマを、次回から逐次協議していくこととし、次回の会議では、『沼田の広報力の向上』を協議することとした。

① 『沼田の広報力の向上』

: 「地力をつける」、「観光開発」、「財政基盤の確立」、「グリーンツーリズム」など

② 少子高齢化対策

: 「8050、7040対策」、「社会保障」、「社会福祉」など

③ 地域コミュニティの再構築と拠点づくり

: 「地域コミュニティの再構築」、「地域の拠点づくり」、「世代を超えた生き甲斐づくり」、「SDGs（グローバル・ゴールズ）」など

④ テラス沼田の具体的利活用の改善

: 「テラス沼田の利活用」など

2) その他

○ 次回（第4回）では、「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証を実施することを説明した。

○ 次回、次々回の会議日程について、事務局から次のとおり調整したい旨を説明し、確認いただいた。

< 第4回 > 日時：10月 3日（木） 午後2時

< 第5回 > 日時：11月14日（木） 午後2時

(5) 閉会（事務局：企画課長）